

令和 5 年度



幼稚園だより 10月号

文京区立小日向台町幼稚園

ゴールの向こうを目指して

園長 小岩井 聡

先日、テレビの天気予報を見ていると、今年は梅雨入りが遅く、夏が後ろにずれて、秋が始まるのも遅くなっているのだとか。10月以降も台風の発生する可能性もあるようなことが言われていました。異常気象という言葉が言われるようになって、かなり経ちますが、今年ほど気象の変化に振り回されることは珍しいようにも感じます。

子どもたちは、隣の小学校の運動会の練習を眺めながら、時折、秋風の吹く園庭で、運動会に向けての活動を様々に取り組んでいます。リズム、団体競技、かけっこ、リレーなど学年毎に、楽しみながら頑張っています。

運動会では、勝敗がつきものです。しかし、運動会を通して育てたいもの、保護者の皆様に見ていただきたいポイントは、そういうことではありません。勝敗をつけることなく、勝敗を通しての多くの学びがあるから、運動会の種目として、取り入れているのです。

以前、年長組がリレーを行っていました。勝敗が発表されると負けたチームの子が悔しくて泣き出す場面がありました。その時に担任から「泣いていても、どうしようもないよ。どうやったら、次に頑張れるか、チームのみんなと考えてみよう」という言葉が掛けられました。リレーの大切な要素がこの言葉の中にたくさん入っています。

自立、自律、協働、もちろん「悔しい」という感情もこの機会に味わう大切な感情体験でしょうし、勝ったチームも、嬉しい思いと共に、一緒に走った相手チームの仲間への振る舞いを知る機会にもなるでしょう。

ちなみに、翌日から自分たちで練習をする姿が多く見られるようになりました。

今年の運動会は、観客数などの制約をせずに実施します。久しぶりにご来賓にもおいで頂きますし、何より全学年の子どもたちが大きな声で応援をしながら、運動会というものを楽しめる機会となると思います。

ぜひ保護者の皆様も楽しみながら、頑張っている子どもたちに大きな拍手をお願いいたします。

